



開倫ユネスコ協会 NewsLetter

第67号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915

発行者 林 明夫 2011年12月1日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

関東ブロックユネスコ活動研究会 in 成田

2011年10月15日、16日の2日間、成田市において「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 成田」が開催されました。今年は、ユネスコ加盟60周年記念の研究会で、関東エリア1都5県の各ユネスコ協会で開催されている方々が集い、テーマに沿って意見交換したり、情報交換したりする場として有意義な研究会となりました。

この研究会には約300名が参加し、『今こそ、ユネスコ活動の活性化を！』が主な研究テーマとして掲げられ、1日目の全体会や2日目の分科会でさまざまな意見が出されました。今後の課題がしだいに浮き彫りにされ、今後さらに各ユネスコ協会において議論が深まることでしょう。開倫ユネスコ協会も今後のユネスコ運動をさらに活性化させるヒントをたくさんいただきました。



第3分科会 司会 開倫ユネスコ協会 林明夫会長

◇第1分科会

テーマ「世界寺子屋運動の更なる進展をめざして」

ひたちなかユネスコ協会では、ネパールの学校に教育支援を続けてきました。発端は茨城大学山岳部OBの体験で、ネパールは山の国のため、道路が無いこと、学校がないこと、電気が無いことなどの理由から国民の65%が教育を受けていません。毎年ネパールを訪問し、現地の先生や生徒たちと交流し、教材やパソコンの寄贈、学資援助、校舎建設援助などの支援を行っています。

学校に通った子供たちの中から、世界寺子屋運動を担う若者が育ちつつあります。支援学校の生徒であるヘム君が分科会に参加しました。家庭の事情で進学は困難でしたが、会員有志の学資援助により、彼は高校2年と大学教養課程2年を経て国立トリブバン大学で農村開発を専攻し今年卒業します。ひたちなかユネスコ協会の人たちは、ネパールへの渡航は全て個人負担、今回のヘム君を日本に呼び寄せるのに30万円の費用がかかるそうです。ひたちなかユネスコ協会の活動はネパール山岳部の自立を促し、自己で拡大化する方向へと躍進しています。（副会長 中谷克信執筆）

